

冬休みの宿題「冬休みのお手紙を先生に出そう」

学年	1 年生
教科•領域	生活科
ICT機器や アプリ名等	・端末 ・オクリンク

ICT活用のポイント

- ・動画や写真を載せられるので、その時のようすが よりリアルに伝えられる。
- ・写真撮影や文字入力などがスムーズにできるよう、 I~2学期を通して指導してきているので、作業自体はスムーズに行えた。
- ・事後の交流も提出ボックスから相互閲覧する形式にすることで、自分のペースで見たりコメントを付けたりすることができた。

○写真機能を使って家庭から「今」を伝える

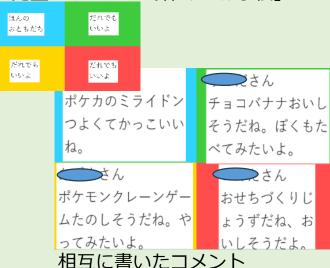
・電子版「冬休みの絵日記」のようなものの政策をめざう。

【テーマ】「クリスマスカード」「年賀状」「冬休みの様子を伝える手紙」として、それぞれの児童の書きやすさを狙った。

- ・冬休み中に提出できるので教員も余裕をもって 確認ができ、始業式の日に、まだ出していない 児童に声掛けができた。
- ・学期初めには提出ボックスの相互閲覧機能で、 相互鑑賞及び評価を行った。
- ・家庭学習から学校での学習活動につなげること で、児童の意欲の高まりが感じられた。



児童のかいた「冬休みのお手紙」





AIドリルを活用した自宅学習

学年	全学年
教科・領域	国語・数学・社会・理科・英語
ICT機器や アプリ名等	・端末 ・Qubena(デジタルドリル)

ICT活用のポイント

- ・生徒が自分のペースで学習を進めていくことができる一方で、家庭学習が定着していない生徒は、積極的にフォローしていく必要がある。
- ・長期休業中の課題など、<u>教科間で事前に</u> デジタルドリル課題の足並みを揃えると、 ペーパーレス化を進めることができる。

〇AIドリルを活用し、個別最適な学びの 推進を目指す。

【Qubenaの特徴】

- ・AIが各生徒の回答から間違いの原因を分析し、各生徒に最適な問題を出題することができる。
- ・どの学年の生徒でも、小学校1年生の問題から中学校3年生の問題まで自由に選べ、つまずきを感じた単元をいつでも復習することができる。
- ・教師から課題の内容を設定することもでき、学習後すぐに取り組んでほしい内容 を学ばせることができる。
- 過去に解いたものだけでなく、生徒の進 捗をリアルタイムで見ることができ、授 業中に正答率の低い生徒へのフォローが できる。

6月実力デ	スト		全回答数	正答率(平均)
A	100	A	671	98.5%
В	88	PP	32	96.5%
С	82	В	856	96.5%
D	80	F	270	93.5%
E	78	E	512	92.0%
F	77	С	1523	91.5%
PP	76	D	2462	89.0%
PP	72	PP	103	87.0%
PP	67	A	302	78.5%
PP	58	PP	160	78.5%
A	56	PP	194	77.5%
PP	53	PP	121	76.5%
PP	50	С	621	76.0%
В	41	В	521	75.0%
PP	40	PP	68	72.5%
PP	39	PP	62	72.0%
PP	34	PP	333	69.5%
PP	34	PP	439	64.0%
PP	34	PP	295	61.5%
PP	34	PP	190	59.0%
PP	32	PP	158	56.0%
С	28	PP	66	50.5%
DD.	00			

AIドリルと実力テストの相関

ピンクの箇所は、AIドリルの正答率が高い 生徒である。その生徒は実力テストで高得点を 取得している。

黄色の箇所は、AIドリルを数多くこなしているが、正答率が低い生徒である。この生徒たちが支援を必要としている。



*** * ***

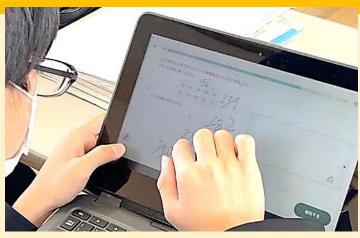
家庭学習としてのAI型教材「Qubena(キュビナ)」の実施

学年	全学年		
教科•領域	数学・英語・社会		
ICT機器や アプリ名等	・端末 ・Google Chrome ・Qubena(キュビナ)		

ICT活用のポイント

- ・個別最適な学びを可能とするAI型教材。 一斉授業後に問題演習をし、知識理解の 定着を図りながら、進んだ内容の問題に も取り組める環境を構築できる。
- ・Qubenaの活用が定着すれば、生徒が 主体的に学びたいことを学ぶ「自由進度 学習」を実現することができる。

- ○AI型教材Qubenaの試験的に導入。
- ・生徒が手書き入力した回答をAIが判断、採点 するため、従来の紙ベースのワークでは行えない個 別最適な学びが提供されるようになった。
- ・学習内容の理解度の差が、生徒の授業に対する 満足度に影響を与えてしまうが、AI型教材では、 生徒の理解度に応じて、最適な問題を最適なタ イミングで提供してくるので、効率の良い学習が可 能。
- ・課題の回収や点検に膨大な時間がかかっていたが、 教員は、Qubena導入により、大幅に時間を節 約することができる。



各自の学習進度に応じた出題が可能



学習状況の個人記録を瞬時に把握できる。





適応指導教室へのリモート授業配信

学年	全学年
教科•領域	全教科(実習や実験実 技の授業を除く)
ICT機器や アプリ名等	- Chromebook端末 - GoogleMeet - 配信用タブレットの三脚

ICT活用のポイント

- ・ 適応指導教室側のChromebookは、カメラオフ、マイクオフにする場合が多いが、グループ活動など話し合いの場面では、マイクをオンにし、会話ができるようにした。
- ・カメラをオンにすると、周囲の他校の生徒が映り込 むことが懸念されるため、背景に効果を入れるなどの 配慮が必要である。
- ・配信側の教師は、電子黒板や板書黒板に移せるよう、適宜三脚を動かす配慮が求められる。

- 学びの機会を保証する観点から、 オンライン会議システムを使った、希 望のある適応指導教室への授業動 画の配信。
- ・教室に入りにくい生徒にも、自分の所属する学級の授業に参加することで、帰属感が希薄になることを防ぐことができた。
- ・休み時間中に、教室の生徒が適応指 導教室の友人と会話をすることができ、 教室復帰への契機となるケースがあった。
- ・「適応指導教室サテライト教室」に も配信している。(R5年度~)





授業の雰囲気がカメラ越しに伝わることで、受け手の 生徒にも安心感が芽生える。